

ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 イヴォーク・メイヘム	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.480	△RG 0.050	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：イヴォーク・メイヘム

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤 番

比較対照ボール：イヴォーク

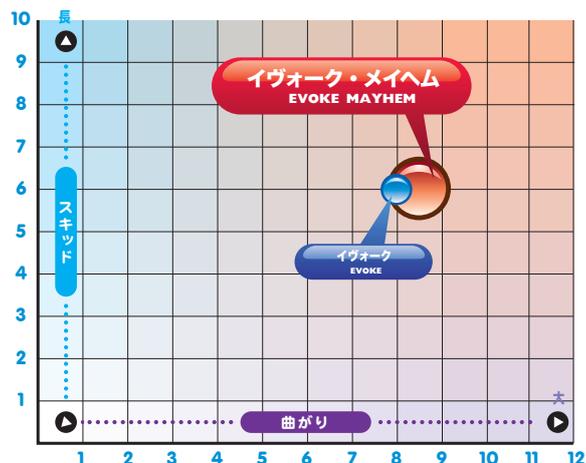
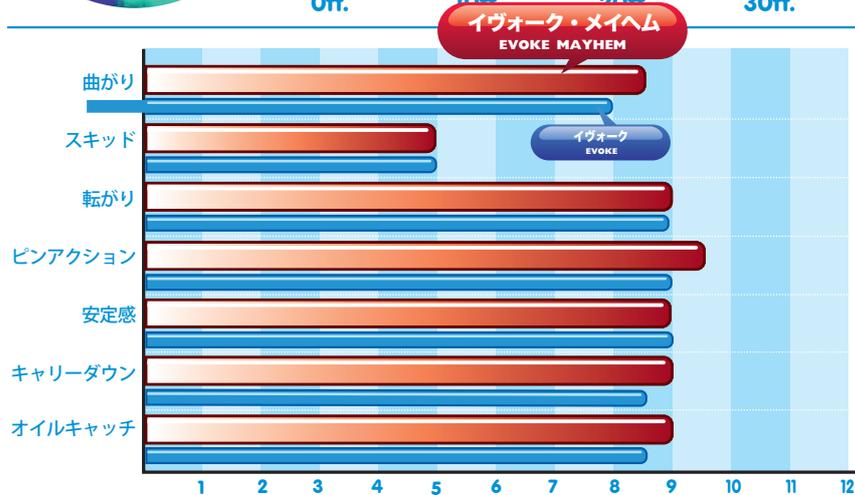
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤 番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

EVOKEシリーズは、MOTIVの中でも「扱いやすさ」と「現代的リアクション」を高次元で両立させてきた存在です。初代EVOKEは、過剰な主張を抑えつつもミッドレーンでの安定感と奥での素直な動きを武器に、多くのボウラーの“基準球”として定着しました。続くEVOKEでは、その方向性を一段引き上げ、Propulsion MXV Pearlカバーによる圧倒的な走りと、ピン前での鋭くもコントロールされた動きが融合し、トーナメントシーンでも結果を残してきました。

今回登場するEVOKE MAYHEMは、そのHYSTERIAの成功を単なる延長線上で再現するのではなく、発想そのものを反転させて開発された点が非常に興味深いです。通常であればソリッド素材を起点に性能調整を行うところを、あえてHYSTERIAで完成度の高かったパールカバーを出発点とし、「より早く」「より強く」「それでも奥の形を失わない」ソリッドカバーを作り上げています。新開発のソリッドシェルは、Leverage™系ソリッドのような強烈な手前の噛みではなく、Propulsion Pearl譲りのスムーズなスキッド感を残しながら、明確にミッドレーンでのグリップ力を強化。さらにDuramax添加剤の採用により、表面が荒れにくく、長期間にわたりリアクションの再現性を維持できる点も、実戦投入を前提とした完成度の高さを感じさせます。

コアには、EVOKEシリーズ共通となるOverload™ Asymmetricalコアを搭載。低RG・中程度のディファレンシャル、そしてしっかりとした中間差を持ち、Predator™ V2やApex Predator™ほどの暴力性はないものの、レイアウトによるフレア調整幅が非常に広いです。フレアを出せば力強さを、抑えればラインコントロールを得られるこの特性は、HYSTERIA以上に“セッティングで化ける”ボールと言えるでしょう。

特記事項

EVOKE MAYHEMは、初代EVOKEの安定感、HYSTERIAの奥の切れ、その両方を別次元で再構築した存在。HYSTERIAでは先まで行きすぎると感じた場面で、このMAYHEMは確かな答えを提示してくれるでしょう。